

第1 作成の趣旨

三河山間地域は、人口の減少や高齢化の進展など厳しい状況にある一方、平成24年の三遠南信自動車道や新東名高速道路の一部開通、並びに東三河県庁の発足など、この地域の条件を大きく変化させる可能性を秘めたプロジェクトが進展しております。

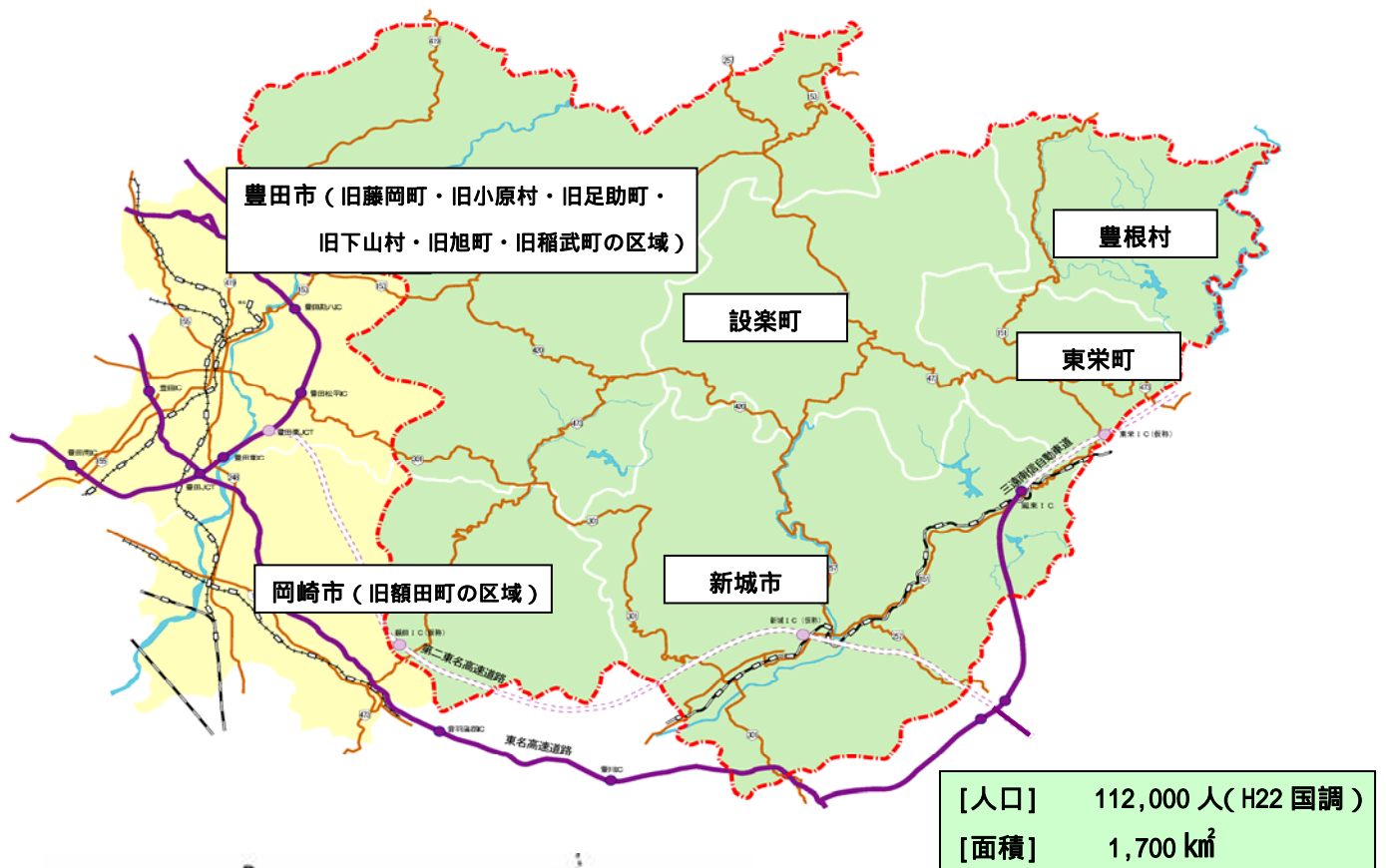
さらには、農山村に対する関心の高まりなど、この地域に活性化の機会をもたらす時代の潮流も認められます。

県では、こうしたプロジェクトの効果や時代の潮流の変化から生み出されるチャンスを最大限に受け止め、地域の活力を再構築するため、三河山間地域の長期的・総合的な振興の指針となる「あいち山村振興ビジョン～緑が生きる豊かな山の暮らしの構築～」(平成21年3月)を策定し、2025年(平成37年)までを展望したうえで、4つのめざすべき将来像を設定しました。そして、これらの将来像を実現するため、2015年(平成27年)を施策展開の目標年次として、県が重点的に展開していく6つの施策の方向性を明らかにし、具体的な施策展開を行ってまいりました。

この施策の展開にあたっては、地域住民はもとより、企業、大学、NPO、ボランティアの方々など様々な主体との多層的な連携並びに都市地域を含む広域的な連携が不可欠です。

そのため、ビジョンに位置付けた施策の2012年度の主な取組状況をまとめた「あいち山村振興ビジョン 年次レポート2013～緑が生きる豊かな山の暮らしの構築 状況報告～」をホームページを通じて情報発信し、多層的、広域的な連携主体と情報の共有や認識の統一を図ってまいります。

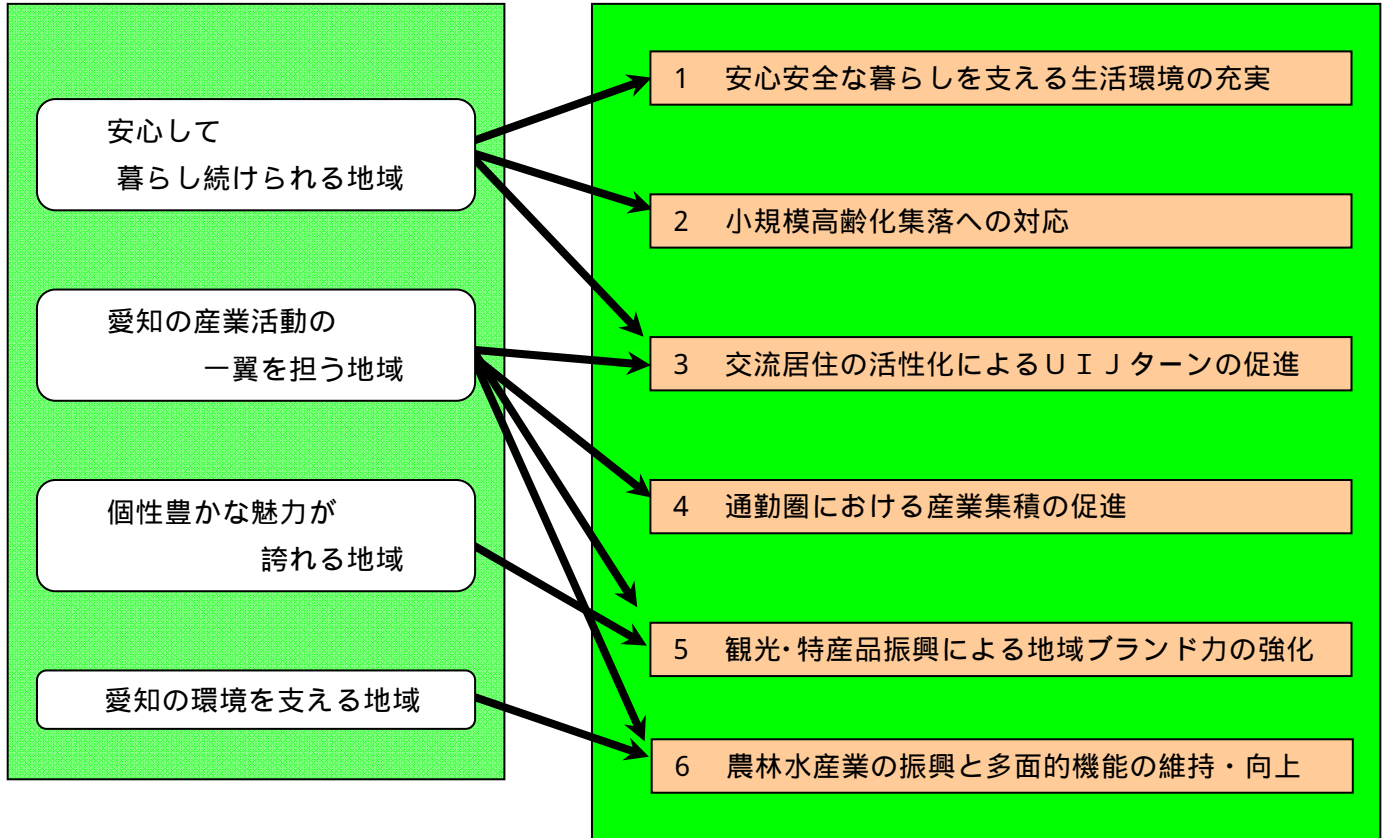
ビジョンの対象地域



めざすべき将来像と重点的に展開する施策

[めざすべき将来像]

[重点的に展開する施策]



↑	↑
施策展開の基礎となる インフラ整備	施策展開を強化する 連携の促進
高速道路など大規模プロジェクトの整備促進 その事業効果を広域的に波及させ、地域のポテンシャルを引き出す道路の整備促進	都市地域を含む広域的連携の促進 企業、大学、NPOなど多層的な連携の促進

第2 2012年度の主な取組状況

1 将来像に向けた施策展開の基礎となるインフラ整備

[地域のポテンシャルを引き出す道路整備等の促進]



< 主な取組状況 >

新東名高速道路、三遠南信自動車道の整備に向けて用地買収や工事等を実施（平成24年4月に新東名高速道路と三遠南信自動車道が接続）

国道151号新城バイパス、国道473号岡崎額田バイパスの平成26年度供用に向けて用地買収や工事等を実施

設楽ダム建設事業に係る水源地域の生活再建を図るため、水源地域整備計画等に基づく事業を実施



新城バイパス

2 将来像に向けた施策展開を強化する連携の促進

[都市地域を含む広域連携の促進]

< 主な取組状況 >

愛知県交流居住センターが三河山間地域6集落（豊田市敷島自治区、新城市黄柳野地区、設楽町豊邦地区、東栄町中設楽・御園地区、東栄町古戸地区、豊根村川宇連地区）において、都市住民との交流イベント支援を実施（交流イベント回数 26回 参加人数 1,003人）



都市住民との交流イベントの様子（田植え）



都市住民との交流イベントの様子（ブルーベリー収穫）

試験研究の連携に関する協定【新規】

効果的な試験研究の推進と森林・林業技術の発展を図るために、平成24年8月3日、森林・林業技術センター（新城市）が静岡県農林技術研究所森林・林業研究センターと連携協定を締結。

< 協定締結者 >

愛知県森林・技術センター所長

静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター長



連携協定締結式（場所：森林・林業技術センター）

「愛知県ツキノワグマに関する専門家会議」に岐阜県、長野県職員をオブザーバーとして招致

[多層的な連携の促進]

<主な取組状況>

平成24年10月11日から12日に、新城市始め過疎5市町村において、総務省、全国過疎問題シンポジウム実行委員会（県、全国過疎地域自立促進連盟、県過疎地域振興協議会で構成）の主催により、「全国過疎問題シンポジウム2012 in あいち」を開催【新規】



全国過疎問題シンポジウム2012 in あいち（新城市）

平成24年12月22日に豊橋市で、現場の知見や経験に基づくアイデア・提言を施策展開に役立てることを目的にした「大村知事と語る会」を開催し、知事と三河山間地域で活躍している方々が、「三河山間地域の魅力発信」をテーマに意見交換を実施【新規】



大村知事と語る会（豊橋市）

テーマ	三河山間地域の魅力発信
開催日	平成24年12月22日(土)
場 所	ロワジールホテル豊橋
意見 交換者	松島周平 (家具工房「first-hand」代表) 人見一弘 (豊根村森林組合林業作業員) 西谷まゆみ (プロの和太鼓集団「志多ら」代表) 梅村篤志 (産地問屋「宮ザキ園」代表) 藤原由佳子 (愛知淑徳大学「きらきら したら」メンバー) 藤本 忍 (有限会社のんほい代表取締役) 小林久美子 (「あいちの山里で暮らそう80日間チャレンジ」豊田市スタッフ)

コンビニエンスストアとスーパーマーケットとの包括協定に基づく地域振興策の実施

中日本高速道路株式会社ホームページ「高速日和」とブログサイト「三河の山里だより」の連携により地域情報を発信

三河山間地域集落と、企業のCSR活動や大学、NPOの共同活動を支援する「三河の山里サポートデスク事業」を三河山間6市町村と検討

行政（北設楽郡3町村、国、県）、名古屋大学、交通事業者、住民からなる北設楽郡公共交通活性化協議会において、移動利便性の高い地域の実現に向けて事業を展開



北設楽郡公共交通活性化協議会（設楽町）

花祭の歴史的意義を再認識するとともに、継承を起点とした地域振興を図ることを目的に、平成23年度から平成25年度の3か年にわたり、愛知県、北設楽郡3町村、名古屋大学、花祭保存会からなる「花祭の未来を考える実行委員会」において、「花祭の保存・伝承による地域活性化事業」を実施

【コラム 全国過疎問題シンポジウム2012 in あいち の開催】

過疎地域は、著しい人口の減少と高齢化の進展、農林水産業の衰退、生活交通基盤の不足、地域医療の危機など様々な問題に直面しています。

そのような中であって、総務省及び全国過疎問題シンポジウム実行委員会（愛知県、全国過疎地域自立促進連盟、愛知県過疎地域振興協議会）は、過疎地域自立促進特別措置法が目指す過疎地域の「自立」を進めるため、全国の行政関係者を始め、住民、地域づくり団体等の皆さんが幅広く議論を深めるとともに、参加者相互の情報交換・交流を図り、過疎地域の明日の地域づくりを考えるため、平成24年10月11日から2日間、豊田市、新城市、設楽町、東栄町及び豊根村を会場に、「全国過疎問題シンポジウム2012 in あいち」を開催しました。

このシンポジウムでは、過疎地域の「資産」や「伝統」など、その地域が持つ価値を守り、活かしていくためには、それらを次世代に受け継ぐ人材の育成や、外部人材によるサポートなどの視点が必要という考え方から、「過疎地域とともに歩む～外からのサポートと内なる価値～」をテーマに、過疎対策に携わる行政関係者をはじめ、住民や地域づくり実践者など、2日間併せて延べ1,300人の方が参加され、幅広く熱心な議論や情報交換・交流が行われました。

また、平成24年度過疎地域自立活性化優良事列表彰式が行われ、8団体が受賞されました。愛知県からは田峰観音奉納歌舞伎 谷高座（設楽町）が総務大臣賞を、豊根村が全国過疎地域自立促進連盟会長賞を受賞されました。



過疎地域自立活性化優良事列表彰式



市町村 PR ブースでの様子